



文・田才諒哉

プロジェクト名

パラグアイ農村部の子どもたちが勉強できる環境を整えたい！

実行者

久喜淳史



横浜国立大学教育人間科学部3年。開発学と人類学について学んでいる。フィリピン支援の団体で活動しているほか、特定非営利活動法人『ミタイ・ミタクニヤ子ども基金』のインターン生として、半年間パラグアイで活動。

現在74人の子どもたちがこの学校に通っている。
<https://readyfor.jp/projects/mitaimitakunai>



みなさんはパラグアイという国の名前を聞いて、どんなイメージを思い浮かべますか？ サッカー好きの方なら、2010年のサッカーワールドカップの決勝トーナメントで日本代表と対戦した国、という印象かもしれません。

南米大陸の中心に位置するパラグアイは、緑あふれる自然豊かな国です。「前向き度ランキング」で世界第1位になるなど、ラテン文化ならではの陽気な人たちが多いようです。実は僕も以前にパラグアイで生活した経験があるので、驚くべきことに日本語が通じるエリアがありました。これは、1936年以降の日本からの移住者による日系社会が形成されているためで、この日系移住地を訪れると、まるで日本よりも日本らしい文化や価値観が根付いています。

そんなパラグアイですが、近年の経済成長は著しく、都市と農村部の格差が深刻になってきています。特に教育面では、農村部では学校に通いたくても家の仕事をするために通えなかったり、そもそも学校がなかったり、通うためにはかなりの距離を歩かなければ通えないなどの状況があります。

パラグアイの農村部において教育支援を中心に活動する特定非営利活動法人『ミタイ・ミタクニヤ子ども基金』では、2006年より小学校の建設を支援してきました。2013年にやっとの思いで3校目の教室を開校できたものの、児童が増えて教室に入りきららず、外で授業を行っているそうです。臨時で使用している校舎には屋根がないので雨が降ると授業ができず、夏は気温が40度以上になるため教室内に熱がこもったり、とても勉強できる環境ではありません。そこで同基金の若手メンバーと学生部が中心となり、新たに教室を増設するプロジェクトが始まりましたが、資金不足でまだ完成に至っていない状況です。今回はその費用をクラウドファンディングで集めています。

プロジェクトの実行者である久喜淳史さんは、「勉強熱心な子どもたちのために環境を整えたい」と、日々仲間たちとともに教育支援に取り組んでいます。僕も「好きな国は？」と聞かれれば、真っ先にパラグアイと答えるほど大好きなパラグアイ。久喜さんたちの活動を応援しています！



たさい・りょうや ●1992年生まれ。横浜国立大学卒業。学生時代に国際教育支援NPOのメンバーとしてパラグアイ、青年海外協力隊としてザンビアで活動を経験。国際協力の世界の資金面の問題を解決したい思いからREADYFORに参画。現在はチーフキュレーターとして、READYFORの大型プロジェクトや国際協力分野のプロジェクトを中心に担当。

About VOYAGE PROGRAM

READYFORによる国際協力活動応援プログラム。NPOなど民間の国際協力活動を行う団体・個人に対し、クリエイターやファンドレイザーの方など他分野で活躍するサポーターの知見を取り入れ、国際協力のお金の流れを変えることを目指す。2016年2月より第1期プログラムがスタートし、8団体が参加。集まった総支援額は3500万円以上、総支援者数も1500人を突破。 <https://readyfor.jp/voyageprogram>